



ガーナからの留学生、“レイ君”に聞きました。

今年の6月、本校の1年B組にガーナからの留学生“レイ・クピリカイ君”が在籍（来年3月まで）して、クラスメイト等と一緒に学んでいます。7月23日の中学生体験入学では、自ら教壇に立ってガーナの生活などについて講義してくれたり、またサッカー班と一緒に活動するなど、何事にも意欲的に取り組んでいます。夏休みも終わり、こちらでの生活も3カ月余りが過ぎました。そこで、本校での生活の様子や将来のことなどについて聞いてみました。



Q 1. 日本に留学しようとした動機は？

A 1. ガーナとは違う生活を経験したかった。日本人の時間を守り勤勉でやるべきことをしっかりとやる国民性にひかれ、日本を希望した。

Q 2. 3カ月余りが過ぎたが、日本での生活の感想は？

A 2. クラスメイトも親切で楽しい毎日を過ごしている。英語や体育、書道などいろいろな授業を受けている。古典は、先生が英訳してくれた教材を使い授業に参加している。

Q 3. 日本の生活で戸惑ったことは？

A 3. ガーナではシャワーは毎日浴びるが、日本のように毎日風呂に入ることはない。また、日本食は何でもOKだが、納豆はあの独特のにおいがちょっと…。

Q 4. 夏休みはどう過ごしたのか？

A 4. 他の留学生と一緒に、スカイツリー、江ノ島水族館、築地、慶応大学、JAXA（宇宙航空研究開発機構）などに行き楽しく過ごせ、ホームシックになることはなかった。

Q 5. 将来の希望は？

A 5. また日本に戻ってきて、化学や電気などについて学び将来はエンジニアになりたい。



日本に来るまではガーナの寄宿舎で規律ある生活（午前4時起床、スマホの持ち込み禁止等）していたということでもとても礼儀正しく、また絶えず笑顔で、通訳として同席してくれた担任の中島先生のサポートのもと、それぞれの質問に対しても、一生懸命日本語で答えようとする姿にはとても好感が持て、頼もしさも感じました。これからも本校での充実した留学生活を送り、将来はガーナと日本の橋渡しとなるような活躍をしてもらいたいと思います。

ガーナ共和国について

- ・1956年、エンクルマを指導者にアフリカ最初の自力独立の黒人共和国となる。
- ・その後は政情不安であったが、自由主義選挙により平和的に政権が移譲されるようになり西アフリカにおける数少ない議会制民主主義国。
- ・主な輸出品は金、石油、カカオ豆
- ・日本との関係では、**野口英雄**がガーナで黄熱病の研究を行い、1929年マラックで客死。また、最近では、男子100M歴代2位の日本記録を持つサニブラウン・ハキーム選手の父親はガーナ人

